

# 東南アジア研究センター 1967年度第4・四半期報告

1968年1月から3月にいたる、1967年度第4・四半期の、東南アジア研究センターの活動状況を要約報告する。

**現地調査研究**としては、前期にひきつづき福井捷朗助手（東南ア研）が、バンコク連絡事務所長代理として勤務するとともに、水稻の植物栄養学的研究をつづけている。川口桂三郎教授（農）は、これまで同教授が系統的に実施してきた東南アジア水田土壌比較研究の一環として、1月上旬、久馬一剛助教授（東南ア研）とともにインドに赴き、3カ月にわたり、主としてガンジス河流域およびインド半島東部の水田土壌の調査を行なった。この調査には、地形学の立場から、高谷好一助教授（東南ア研）が参加協力した。本岡武教授（東南ア研）は、第2期計画にあらたに含まれる予定のインドネシア計画の予備調査を行なうため、3月末、約3カ月の予定をもってインドネシアに赴いた。

**養成計画**では、1967年1月以降、当センター派遣海外留学生として、インドネシアのバンドン工科大学建築学部においてインドネシア民族建築等の研究を行っていた野口英雄大学院学生（工）が、留学を終え1月中旬帰国した。

**交換計画**としては、本岡武教授が1月末、ホノルルで開催されたSEADAC会議に出席した。昨年11月上旬から、アメリカおよびヨーロッパの東南アジア研究機関および研究者を歴訪していた石井米雄教授（東南ア研）は、1月中旬帰国した。

**出版計画**では Reports on research in Southeast Asia, social science series No. 2, natural science series No. 3 および「東南アジア研究双書」Ⅱ、Ⅲの刊行準備がすすめられている。

東南アジア研究センターは、本期をもって第1期5カ年計画を終了する。来年度からは、これまで実施してきた現地調査研究の成果の刊行に全力をそそぐとともに、あらたに第2期3カ年調査計画を開始する。第1期5カ年計画を終えるにあたり、これまで各方面からセンターに寄せられた温かい御支援に心より謝辞を申し述べるとともに、今後いっそうの御指導御鞭撻をお願いする次第である。

1968年3月

京都大学東南アジア研究センター所長

岩 村 忍